



Play! Mago-no-Chikara

孫の力 する!

詳しくはこちらを参照
<http://krocchi.com>

「孫の力する」とは、孫の力の理念「孫はあなたと日本の未来です」を念頭に、具体的な行動を起こすことをいいます。



©森田拳次



文=山下治子
写真=井伊杏

幸せまちをつくるんだいっ! 2

PART

第2回 「戦争はいけない」を漫画で伝える

アツツーウ! クロネコのクロッチにとって夏は自らの運命を考える季節でもある。

シロネコだったならもっと涼しかったろうに……と。

しかし、この夏はもっと深いテーマに出会った。漫画界の大親分から、

「孫世代に伝えたい戦争のこと」を聞き、「平和」の大切さ、幸せについて考えてみた。

ひさびさのふるさとで
出会った、もう一つの「夏」

ギラギラと照りつける太陽のもと、クロッチは黒い毛並みをジリジリと灼かれながら東京の目白落合あたりを歩いていた。クロッチは肉球にもものすごい熱を感じながら、「おいらは、なんでクロネコなんだ?」と、どうしようもない、いや与えられた運命についても考えるのだった。

すると、ちようど下落合あたりに着いたころ、
「あれ? クロッチじゃないか」と、呼びかけるおじいさんが出現。ハッと、いつものクセで身構え、ギロツと振り返ると……。
おお、森田親分! そのニコニコ顔、お久しぶりです!

「ニヤ、ニヤ〜ン」
おいらは急に、やさしい気分になった。森田親分こと、ギャグ漫画の大先生、森田拳次さんだ。有名な「丸出だめ夫」は、勉強も運動も何をやってもだめな小学生の

を残し、伝えていこうという活動を始めるのだ。
「思い出したくないこともあるけど、二度と起きてほしくないからね。漫画だから子どもから大人、外国人にもいろいろと感ずてもらえるだろ」

「ニヤ〜ン」
おいらも、漫画だったらわかる。ひもじい表情の子どもたち、死体が積み上げられた街角、必死で逃げまどう家族、置き去りにせざるを得なかったネコたち、イヌたち……などなど。見るのはつらいけど、こういう事実があったのだ。

「クロッチ、僕たちはこの事実と、平和の大切さを訴えていこうと活動をしているんだよ」
クロッチは大きくうなずいた。
「お、そうだ。この近くに仲間のちばてつやくんが住んでいるんだ。ちよつと訪ねてごらん」
えっ!? ちばてつやさんって、い

えば、ボクシング漫画、矢吹丈と力石徹が宿命の出会いをする、あの「あしたのジョー」の絵を描い

丸出だめ夫くんが主人公で、おいらはなぜか親近感を抱いていたのだ。それにしても、なぜここに?

戦争? 中国?
引き揚げ?
人もネコも!
多くの命が失われた

「いや、ちよつと懐かしくてね。ここは戦後すぐに中国から引き揚げてきたとき、最初に住んだところだったから」。そして、こんな話をしてくれたんだ。

1945(昭和20)年、今から70年近く前の8月15日。それは日本にとって第2次世界大戦が終りを告げる日となった。でも、戦争は終わったものの、そこからが大変だった。とくに森田さん家族は旧満州に住んでいたのだけど、それを機に、そこに住んでいた多くの日本人たちは着の身着のまま中国大陸から逃げるように引き

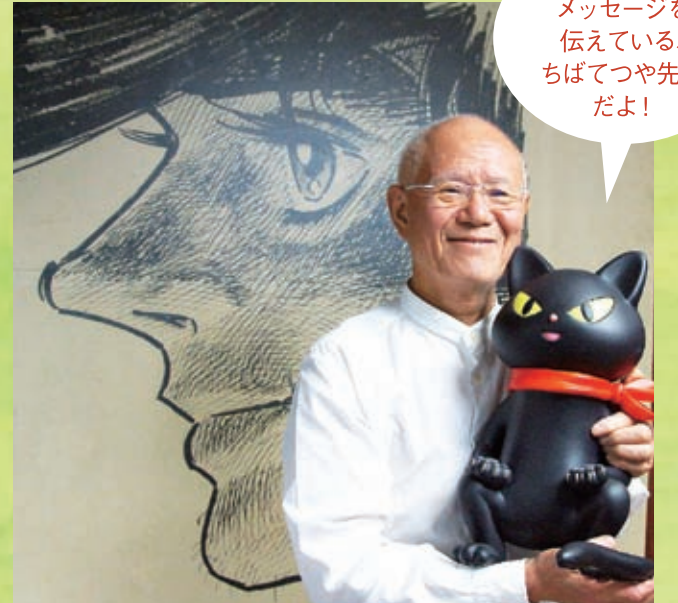
てた親分じゃないか。

二度と起きてほしくないんだ!
戦争は
何も生み出さないんだ!

クロッチはいつの間にか、軽やかにステップを踏んで向かっていた。そうして玄関の前に立つと、
「キミがクロッチかい。赤いマフラがかっこいいね」
と、ちばさんの第一声。そのやさしい響きがクロッチの心の緊張を解いた。森田親分から聞き、おいらも一緒に行動したいと申し出ると、

「そうか、嬉しいなあ。あのね、クロッチ、こうしているあいだも、地球のいろんなところで土地や命を奪い合う争いが起きているね。でも、戦争は何も生み出さないんだ。むしろ、多くの被害者だけを生むんだよ。それも、なくんにも関係ない人々だ。僕はあの戦争のような体験を誰にも味

漫画で大切なメッセージを伝えている、ちばてつや先生だよ!



揚げなければならなくなったのだ。森田さんはそのとき、まだ7歳。
「それは大変だったよ。生きて帰ることができたのが奇跡と考えるくらいにね。亡くなった子どもや大人もとても多くてね。あんまりつらかったから、笑いとばそうつて、ギャグ漫画家になったのかな、ハハハッ」

そうして、戦後50年を迎えたとき、森田親分は同じように中国から引き揚げた体験のある漫画家たちに呼びかけて漫画で当時の記憶

わってほしくないんだよ」

と、引き揚げの途中であったいろんな悲惨なできごとを淡々と語ってくれた。クロッチの赤いマフラは涙でぬれていた。
「人は、言葉を使い、話し、考え、理解しあうことができるんだ。だから、そのことを伝え続けていくことに意味がある。一緒にやってくれるね」
もちろんだ!

おいらも漫画やアニメに登場して親分たちの大切なメッセージを伝えていくよ。そして、いつかは丸出だめ夫くんやジョーとも共演するんだいっ!

©森田拳次



森田拳次先生が代表理事を務める「私の八月十五日の会」の活動については公式ホームページをご覧ください!
<http://815-surpara.com>